1.将来像 ～笑顔を礎に、希望ある未来へ～



■将来像の考え方

本市では、人口減少や少子高齢化の進行、地域経済や地域コミュニティの変化など、これまでにない大きな環境の変化に直面しています。

このような時代においても、地域の活力を維持し、誰もが安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

そのために大切となるのが、これまで受け継いできた歴史や文化、地域の営みを未来へつなぐとともに、人と人、地域と地域、世代や分野、市内外を結ぶ「つながり」です。多様な主体が支え合い、連携しながら、それぞれの力を生かすことで、新たな価値や可能性が生まれます。

■将来像に込めた想い

「つながり」には、先人から受け継いできた歴史や文化、自然、人々の営みを過去から現在、未来へつなぐ「時のつながり」、人と人、世代や分野を超えて支え合う「人のつながり」、市内の地域はもちろん、市外の人や地域とも連携する「地域のつながり」という想いが込められています。こうした様々なつながりを広げ、それぞれの力を生かすことで、新たな価値や可能性を生み出していきます。

「挑戦」には、時代の変化を前向きに捉え、つながりを力として新たな価値や可能性を切り拓く想いが込められています。

「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」は、これまで大切にしてきた想いを受け継ぎながら、人と地域の力を結集し、希望ある未来をともに創り上げていく理想のまちを表しています。

■進化のストーリー

これまで大切にしてきた「あふれる笑顔」と人と地域のつながりを礎に、時代の変化を前向きに捉え、新たな挑戦によって未来を切り拓くまちへ。

村上市では、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化、自然、人々の営みなど多くの地域の財産を受け継ぎながら、まちづくりを進めてきました。

第3次総合計画では、こうした地域の力を生かしながら、「あふれる笑顔のまち村上」を将来像として掲げ、笑顔あふれるまちを目指してきました。

第4次総合計画では、これまで大切にしてきた「笑顔」への想いを受け継ぎ、その笑顔を支えてきた人や地域の「つながり」をさらに広げ、そのつながりを力として新たな「挑戦」へつなげます。

こうしたこれまでのまちづくりを継承し、さらに発展させながら、「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」を目指します。



2.基本理念 ～ともに創り 育み 広げていく 未来へ～

■基本理念とその意味

基本理念の３つの要素「まちづくりのエンジン」

創る
新たな価値･仕組み･賑わい･未来を創る
- 地域資源の価値を高める
- 新たな産業を生み出す
- 未来につながる仕組みを創る

育む
人･地域･産業･誇りを育む
- こどもと若者を育てる
- 地域の産業を育てる
- 誇りと愛着を育む

広げる
つながり･交流･連携を広げる
- 地域内外の交流を広げる
- 連携を広げる
- 共創の輪を広げる

この３要素を進めることにより、物事を前に進める力や持続させていく力を高めます。

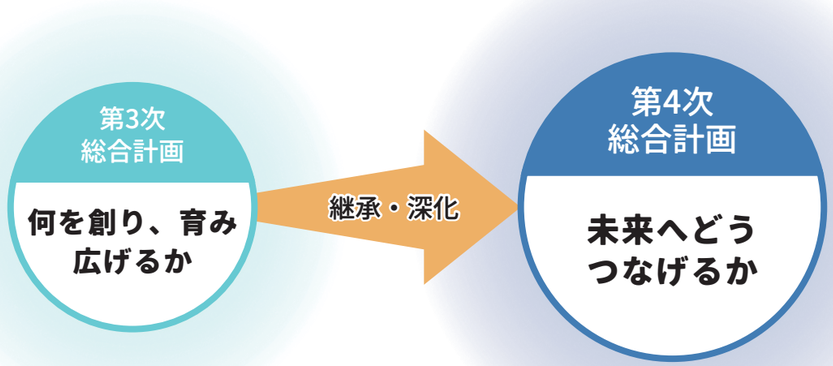
■基本理念の考え方

まちづくりの基本理念は、本市のまちづくりを進めていくうえで、市民一人ひとりと行政がそれぞれの立場でともに大切にしなければならない基本的かつすべてに共通した考え方を示したものです。

第４次村上市総合計画においては、第３次村上市総合計画で掲げたまちづくりの基本理念を引き継ぎながら、「創る」「育む」「広げる」の３つの要素に、つながりや共創、新たな価値を生み出す視点を加え、これからの時代に合わせてその意味を深化させます。これらを、あらゆる場面に共通して必要な考え方として位置付け、持続可能なまちづくりを進めていくことを表現しています。

第３次総合計画では、食や賑わい、芸術などを「創る」、誇りや人材、産業、伝統などを「育む」、笑顔や交流を「広げる」など、「何を創り、育み、広げるか」という考え方を基本理念としてきました。

第４次総合計画では、この基本理念を引き継ぎながら、地域資源から新たな価値や仕組みを創り、人･地域･産業･誇りを育み、市内外の人や地域とのつながり、連携、共創の輪を広げることで、それらを「未来へどうつなげるか」という視点まで意味を深めます。





3.基本目標 ～村上の未来を描く設計図～

■基本目標の考え方

基本目標は、本市が目指す将来像を実現するために、まちづくりを進めていくうえで大切にする5つの柱となる方向性です。

市民・団体・企業・行政など、あらゆる主体が連携・協働しながら、各分野の取組を推進し、「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」の実現を目指します。

将来像 | つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上

基本理念 | 創る・育む・広げる

基本目標 | 5つの基本目標（5つの柱）



政策分野 | 32の政策分野



子育て
こどもの権利が擁護され、誰もが安心して産み育て、その幸せが未来へと続くまちを目指します。

健康・医療
地域医療体制を維持し、市民が主体的にこころと体の健康づくりに取り組めるまちを目指します。

高齢者福祉
高齢や認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちを目指します。

障がい者福祉
障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して暮らし、働き、地域に参加できる支え合いのまちを目指します。

地域福祉
誰もが孤立せずみんなで助け合い、切れ目のない支援で安心して暮らせるまちを目指します。



基本目標 2 豊かで安心なまち

安全で強靭な生活基盤を整え、
自然と調和した快適で豊かな暮らしを支え、
安心して住み続けられるまちを目指します。

防災	災害に強く、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。
消防・救急	消防・救急体制の強化による安全・安心なまちを目指します。
防犯・交通安全	犯罪や交通事故のない安全・安心なまちを目指します。
環境保全・エネルギー	豊かな自然や生態系を保全し、脱炭素社会の実現と、美しい郷土を次世代につなぐことを目指します。
生活衛生	循環型社会による、快適で暮らしやすいまちづくりを目指します。
上下水道	持続可能で強靭な上下水道ライフラインを目指します。
河川・海岸	治水施設と市民の防災力が共働し、安全・安心が確保されるまちを目指します。
道路	安全で効率的な道路ネットワークが、地域の活力を支えるまちを目指します。
公共交通	快適で持続可能な移動環境を有するまちを目指します。
市街地・景観	歴史と伝統を守りながら、快適に暮らせるまちを目指します。
住環境	快適な住環境を維持し、住み続けられるまちを目指します。



基本目標 3 魅力ある賑わいのまち

地域資源や産業の力を生かし、
活力と賑わいにあふれるまちをつくるとともに、
市内経済の好循環を目指します。

農業	資源や環境を守りながら、未来につなげる持続的な農業を目指します。
林業	森林資源の循環利用を通じた、林業の活性化と脱炭素社会の実現に貢献する森づくりを目指します。
水産業	他業種と連携し、水産業の付加価値と収益を高め、新規人材の確保を通じて、持続可能な水産業を目指します。
商工業	デジタルと伝統が共生し、若者が夢を叶えるまちを目指します。
観光	地域の魅力を生かし、多様な旅行者が滞在し、市民とともに賑わいを創出する観光地を目指します。
港	港を核とした賑わいと産業が共存し、安全・安心が確保されるまちを目指します。
就労・雇用	誰もが地元で夢を形にし、挑戦と活気があふれるまちを目指します。



基本目標 4

人が輝く郷育（さといく）のまち

あらゆる世代が学び、文化やスポーツに親しみ、
学びや経験を地域に生かしながら、
郷土への誇りと生きがいを育むまちを目指します。

学校教育

こどもたちを育む学校教育の充実したまちを目指します。

生涯学習

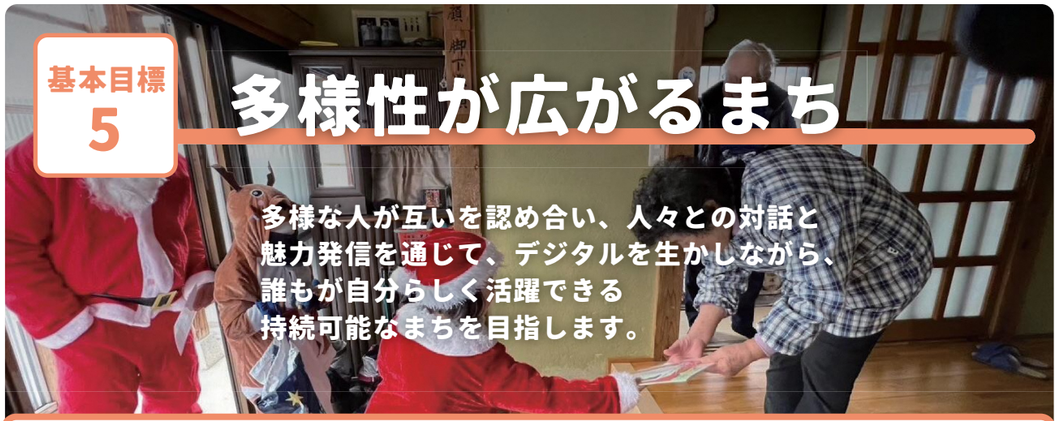
市民が気軽に集い、生涯を通じて
多様な学びと成果を生かせるまちを目指します。

文化財

歴史や文化財の魅力あふれるまちを目指します。

スポーツ

誰もがスポーツを楽しみ、心身ともに健康で、
いきいきと輝く生涯スポーツのまちを目指します。



基本目標 5

多様性が広がるまち

多様な人が互いを認め合い、人々との対話と
魅力発信を通じて、デジタルを生かしながら、
誰もが自分らしく活躍できる
持続可能なまちを目指します。

共生社会

誰もが自分らしく暮らせるまちを目指します。

地域づくり

地域の活力を感じるまちを目指します。

広報広聴

誰もが情報を得やすく、市内外の人々との対話と
魅力発信を大切にするまちを目指します。

デジタル

「いつでも」「どこでも」「だれでも」生活の利便性を
感じることができる「スマートむらかみ※」を目指します。

行政運営

きめ細やかな行政サービスと効率的な行財政運営で、
持続可能な未来を築くまちを目指します。

※スマートむらかみ：デジタル技術を活用して行政サービスや市民生活の利便性を高め、誰もが安心・安全で快適に暮らせるまちを目指すものです。

4.土地利用構想 ～将来の土地利用の方向性～

■土地利用の考え方

本市は、広大な市域の大部分を森林が占めており、北部、南部、海岸部の居住地域や山間集落が点在しています。人口減少や高齢化が進む中においても、市内のどの地域に住んでいても安心して暮らし続けられる環境を維持するため、地域の特性や生活圏に応じた機能の配置と、人や地域をつなぐ様々なネットワークの確保を土地利用の基本的な考え方とします。

人口減少社会においては、生活に必要な機能を一定の地域へ集約することが重要である一方、周辺地域を含め、市域全体の暮らしを維持していくことも必要です。そのため、本市では、「集約」と「生活維持」の両立を基本とし、必要なサービスへのアクセスを確保しながら、市内のどの地域に住んでいても安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。

この考え方に基づき、行政、商業、広域的なサービス機能などが集積する村上地域の市街地圏域を「中心拠点」と位置付け、本市全体の暮らしや活動を支える中核として、より高度な都市機能の充実を図ります。

また、中心拠点を補完し、日常生活を支える地域を「地域拠点」と位置付け、生活に必要なサービス機能の維持・充実を図るとともに、周辺地域からも利用しやすい生活利便性の確保を目指します。



さらに、中心拠点から距離があり、生活サービスの維持が特に重要となる地域を「北部生活圏」と位置付け、支所や駅、医療・福祉機関など、日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図り、地域で安心して暮らし続けられる生活環境を支えます。

中心拠点、地域拠点、北部生活圏は、それぞれの周辺地域を含めた市域全体の暮らしを支えるための拠点・生活圏として位置付けるものです。山間集落をはじめとする各地域についても、これらの拠点等とのつながりを確保し、必要なサービスへアクセスできる環境を維持していきます。

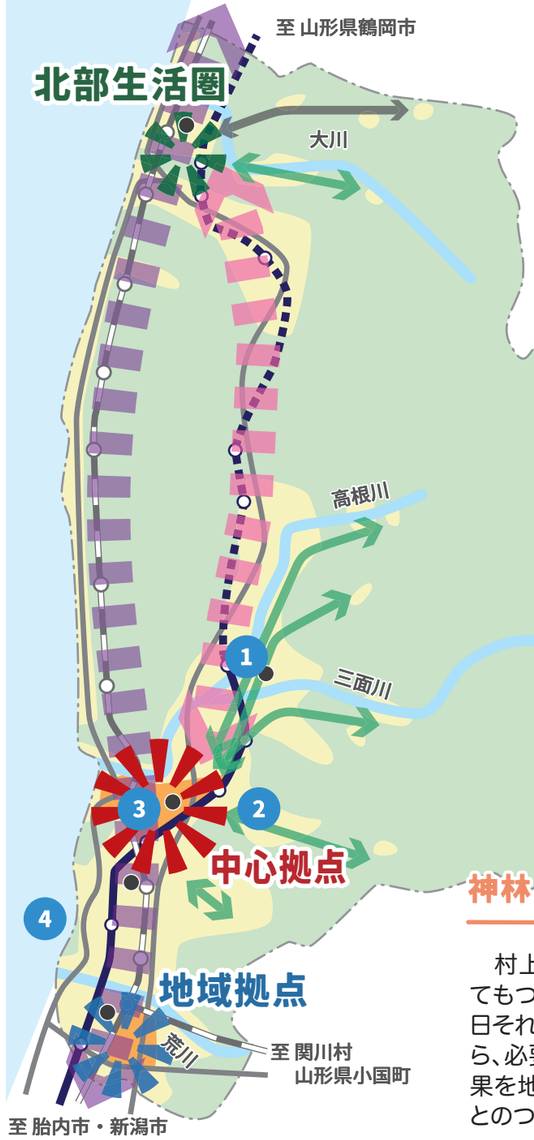
整備が進む高速道路は、市内を南北に結ぶ広域道路軸として、人やモノの流れを活性化させる重要な役割を担います。高速道路を活用した市産材の運搬や木質バイオマス発電、村上駅周辺まちづくり、洋上風力発電、道の駅朝日リニューアルなどの取組を結び付け、新たな産業や交流の創出を図りながら、地域活力の向上につなげます。

また、市域全体の暮らしを支えるためには、道路や公共交通などの物理的なネットワークだけでなく、情報通信基盤やデジタル技術も含め、人や地域、サービスを幅広く「つなぐ」ことが重要です。公共交通の維持・確保に加え、デジタル技術を活用することで移動負担を軽減し、市内のどの地域に住んでいても必要なサービスへアクセスできる環境づくりを進めます。

こうした様々な「つながり」によって、拠点や地域それぞれの機能や特色を生かし、人やモノの交流、連携を促進することで、新たな価値や可能性を生み出します。

豊かな自然環境と地域特性を生かしながら、「集約」と「生活維持」を両立し、市域全体の暮らしを支えるとともに、「つなぐ」ことで新たな価値を生み出す、持続可能な村上市を目指します。

■まちの未来の構想図 ［人と地域をつなぐまちの骨格］





市内を縦断する全線無料の高速道路は、人やモノの流れを支え、木材産業や洋上風力発電、道の駅、駅周辺整備など、地域の様々な取組をつなぐ基盤となります。人・地域・産業のつながりを広げ、新たな交流や価値を生み出すことで、地域の可能性をさらに広げます。

山間部集落　生活を支えるつながり

公共交通やデジタル技術などを活用し、市内のどこに住んでいても、必要なサービスにつながることができ、安心して暮らし続けられる環境を目指します。

神林・朝日　暮らしのつながり

村上地域と地理的に近く、日常生活においてもつながりの強い地域です。村上・神林・朝日それぞれの地域の特性や機能を生かしながら、必要な機能を適切に配置・充実し、その効果を地域全体に広げるとともに、市内各地域とのつながりを深め、暮らしを支えます。



1 道の駅朝日リニューアル



2 木質バイオマス発電

※掲載している取組には、市が実施する事業のほか、国や民間事業者等が実施主体となるものも含まれています。

土地利用を支える考え方

●産業・人やモノの流れの活性化

地域資源や高速道路網を生かし、産業振興を図るとともに、地域や拠点をつなぎ、人やモノの交流と連携を広げることで、新たな価値や地域活力の創出につなげます。

●デジタル技術の活用

情報通信基盤やデジタル技術を活用し、市内のどの地域に住んでいても、日常生活に必要なサービスを利用できる環境づくりを進めます。

●集約と生活維持の両立

「集約」と「生活維持」を両立し、人と地域をつなぎ、市域全体の暮らしを支える持続可能な村上市をつくります。

北部生活圏

中心拠点から距離のある地域において、日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図り、地域の特性を生かしながら、安心して暮らし続けられる生活環境を支えます。

中心拠点

行政、商業、広域的なサービスなどの都市機能を集積し、本市全体の暮らしや活動を支える中核拠点として機能の充実を図ります。

地域拠点

中心拠点を補完する拠点として、日常生活を支えるサービス機能の維持・充実を図るとともに、周辺地域の生活利便性を支えます。

広域公共交通軸

市内を南北に結ぶ鉄道は、海岸部をはじめとする沿線地域の暮らしを支えるとともに、市内外の人の移動や交流を促進する重要な公共交通軸として、地域間のつながりを支えます。

広域道路軸

整備が進む高速道路は、市内を南北に結ぶ広域道路軸として、人やモノの流れを活性化させ、北部と南部の交流や産業活動を支えます。

生活ネットワーク

公共交通やデジタル技術を活用して地域間のつながりを確保し、市内のどこに住んでいても必要なサービスにアクセスできる環境を整え、暮らしを支えます。

山林
農地・集落 他
市街地
鉄道・駅
高速道路・IC
高速道路・IC（事業中）
国道
市役所・支所
行政区域



3 村上駅周辺まちづくり



4 洋上風力発電

5.将来に備える重点視点

～人口減少時代を乗り越え、持続可能な村上市をつくるために～

■４つの重点視点

人口減少への対応

人口減少の中でも地域の活力を維持し、持続可能なまちをつくる

- 将来の人口構造や地域の実情に応じた土地利用・施設配置の最適化
- 公共施設の集約・再編・維持管理の効率化
- 地域の特性に応じた生活基盤の維持

人づくり担い手確保

次世代を担う人材を育て、多様な主体が活躍できる環境をつくる

- 子育て・教育環境の充実による若者の定着
- 多様な働き方の推進と雇用の創出
- 地域活動や産業を支える人材の育成・確保

デジタル活用効率化

デジタル技術を活用し、暮らしや行政サービスの質を高める

- デジタル技術の活用による市民サービスの向上
- 移動・医療・教育などの利便性向上
- 各種業務の効率化

多様な主体による共創

多様な主体が、それぞれの力を生かして、ともにまちをつくる

- 市民・地域・企業・行政による協働の推進
- 地域資源の活用と価値の共創
- 男女がともに自分らしく参画・活躍できる環境づくり

■重点視点の考え方

人口減少・少子高齢化の進行、担い手不足や財政制約の高まりなど、本市を取り巻く社会環境は大きく変化しています。

こうした変化に的確に対応するとともに、人口減少の抑制に取り組み、市民一人ひとりが安心して暮らし続け、地域の活力を未来へとつないでいくことが重要です。

そのためには、将来への効果や緊急性などを踏まえて取組の優先度を見極めながら、分野を越えて共通する視点を持ち、限られた資源を効果的に活用することが不可欠です。

本市では、５つの基本目標に基づく取組を、これら４つの重点視点を横断的に取り入れながら推進します。

